児童と教師の人間関係の研究 I*

——児童の態度に影響する教師の条件——

徳島大学

岸田元美**

I 研究の目的

第一報告⁽⁶⁾では、学級社会における児童と教師の人間関係の問題について、児童から教師への適応を、12学級について調べた。そこで研究された主な点は、担任教師に対する適応関係の学級差であつた。そしてこれらの適応関係を規定する条件について、児童の側に重点をおいて分析を加えた。その結果、児童の人格特性は、児童—教師関係において、さして重要な要因でないことが明らかにされた。それよりもむしろ教師の人格特性や教育的指導態度の要因が、児童の教師への適応を規定する主要条件であることが結論された。すなわち児童が教師と結ぶ人間関係は、教師が児童に指向する人間関係の反映であり、教師の人格特性、教育的指導態度のあらわれであることが推定された。したがって、児童—教師関係は教師の人格構造、わけても彼の教育的指導態度の構造が究明されなければならない問題であり、必然的に教師論にまで及ぶ性質をもった問題であつたのである。

以上の第一報告の結論に基づいて、本報告はこれをさらに発展させるために、特に数名の教師を被験者として事例的に取り上げ、かかる事例研究を通じて、この人間関係における教師の役割を明らかにし、望ましい児童—教師関係を構成するための教育的指導態度のあり方を究めたいと思う。

II 研究方法

研究対象と方法は第一報告と同じである。第一報告で対象とされた12学級から、互に区別しうる児童—教師関係の状態にあつた6学級の担任教師を選択し、その教師について、人格特性と教育的指導態度を調べる。他方では、それらの教師が担任する学級児童について、質問紙でおのおのの担任教師に対する対人態度を調査し分析する。(質問紙は附表参照、調査方法は第一報告参照)

かくして得られた教師に関する資料と、児童に関する資料を、相互に関連させ分析解釈することにより、児童と教師の人間関係に影響する教師の条件のうち、いかなるものが特に重要な要因となるか、これを調査する。換言すると、教師の人格特性や教育的指導態度の相異に応じて、担任された児童が、いかなる対人態度を教師に示すか、この点について明らかにするのである。

調査された教師の条件は、年令、性、教職経験年数、最終学歴、向性、教育的指導態度である。その他にも、例えば Willer, W. ⁽³⁾ も言及しているが、教師の身体的容貌的特徴、服装、音声、表情なども取り上げる必要がある条件だが、このたびは省略した。

向性検査は田研式診断性向性検査を使用した。教育的指導態度の調査は私案⁽⁷⁾によつた。それは教育指導における情意的な行動特徴を明らかにするためのものである。すなわち、まず教育的指導態度を、次の5つに分けて調べる。

- (1) 愛情ある態度——冷淡な態度
- (2) 強制的態度——自由放任的態度
- (3) 熱心な態度——閑却した態度
- (4) 厳格で規律正しい態度——寛容な態度
- (5) 教育職務に勤勉——不勤勉で未熟な態度
熟達した態度

これらの中で、(1)(2)(3)(4)では、その特徴が顕著に現われる行動場面から15問、(5)では30問を設定し、それぞれの問題について4段階の自己評価をおこなわせ、そ

* A study on the human relationship between pupil and teacher: II. —With special emphasis on the effects of teachers' conditions upon the pupils' attitude toward them—

** by Kishida, Motomi (Tokushima University)

本研究は昭和30年度文部省科学研究助成補助金による研究の一部である。研究に際して、御指導をいただいた広島大学教授三好総先生および調査の便宜を提供し御助言をいただいた徳島市助任小学校校長雑賀二良先生に、厚くお礼を申し述べたい。

Table 1 教育的指導態度の評価基準

評価項目	評定点の段階		
	←	普通	→
I 愛情的な態度—— 冷淡な態度	36以上	35—25	24以下
II 強制的態度—— 自由放任の態度	31	30—20	19
III 熱心な態度—— 閑却した態度	36	35—25	24
IV 厳格な規律ある態度 ——寛容な態度	36	35—25	24
V 教職に勤勉熱—— 達した態度 不勤勉未熟な態度	71	70—45	44

の結果から教育的指導態度指数を求める。指数は Table 1 で換算され評価される。指数の求め方は4段階の評価に3点から0点までの評定点を附与したから、それを各評価項目ごとに合計すればよい。

III 教師の人格特性と教育的指導態度

調査された6名の教師の人格特性と、教育的指導態度は Table 2 のとおりである。まとめると次のようになる。

担任学年では5年担任が3名、6年担任が3名である。男女別ではそれぞれ3名ずつで、年令別では、25才前後

Table 2 教師の条件

教師		A	B	C	D	E	F
条件							
担任学年		5	5	6	5	5	6
性別		F	F	F	M	M	M
年令		32	26	40	24	29	32
教職経年数		7	7	19	4	8	12
最終学歴		女子 師範	女子 師範	女子 師範	大 学 二年制	師範	師範
向性 (偏差値)	社会的向性	41	38	36	60	51	34
	思考的向性	50	47	47	57	47	40
	劣等感	35	55	50	65	50	35
	神経質	58	44	32	56	40	34
	感情変易性	50	50	38	38	48	38
	一般向性	47	47	41	55	47	36
教育的 指導態度	愛 情	30	32	37	36	30	37
	強 制	26	34	37	21	24	35
	熱 心	33	33	36	39	37	36
	厳 格	30	41	41	38	33	41
	教育技術	53	63	78	82	73	80

の青年教師が2名、30才前後の壮年前期の教師が3名、40才の壮年期の教師が1名となる。但し40才のC教師は女教師であり、かつまた教職経験年数が19年であることからすれば、この教師は老年教師とみなしてよからう。

向性指数の内訳は、1名の教師(D)を除いて、他はすべて内向的傾向の教師にかたよつたが、これは使用したテストの欠陥または被験者の見本などの偏りというよりも、むしろ教師の一般的傾向を示すものとして解釈してよいと思う。小学校教師という職業は、性度はW的であり、W的傾向の内向的性格者が好んで選択する職業である。また教職そのものの特性の影響をうけ、教師はW的、内向的に馴致されている。

教職経験年数では、5年未満が1名、5年以上10年未満が3名、10年以上は2名となつている。したがつて被験者は、おおむね教職に習熟した教師であるといつてよい。なおA教師は、年令の割に経験年数が少ないが、これは一たん教職を退き、最近に再び復職したからである。このことは彼女の人格特性と相まつて、児童との人間関係に悪影響を与えている。これは後に明瞭になる。

最終学歴は、教員養成大学の短期課程を終了した1名を除いて、他はすべて師範学校卒である。新制度の教員養成課程を終つた大学卒の教師と、旧制度の教員養成課程を終つた者との、教師としての資質の差異(したがつて児童との人間関係も当然その中に含まれる)を明らかにすることは大切な研究課題であろう。しかし残念ながらこのたびの研究ではそれが望めない。後日の研究に待たたい。

教育的指導態度は、この研究の性質からみて、さまざまな指導態度を持つ被験者を得ることが望ましい。しかしさような被験者を得て、その協力を求めることは甚だ困難であり、本研究においても極端な指導態度をもつた教師はいない。しかしある程度の問題の教師(例えばA教師)もいるから、ほぼ調査の目的にかなつた被験者が得られていると思う。

次に各教師について、調査結果および校長所見によつて、その特徴を概括して述べてみよう。

A教師 壮年前期の女教師。やや内向的性格。なかでも特に社会的向性は内向型で、劣等感が非常に強い。教育的指導態度の顕著な特徴はないが、教育職務に勤勉熱達した態度がみられるとはいえず、学習指導や生活指導に十分熱達していない。これは5年間教職に従事し、退職した後、再び最近になつて復職したので、教育技術を修練する機会に恵まれていないためである。

B教師 青年女子教師である。やや内向的性格。社会的向性は内向型。指導態度は顕著に強制的。校長の観

察では、几帳面で臍が厳格であり、細事も見逃さずきちんとさせるという。また線が細く、強制的である。したがって学級管理の面からこの学級を評価すると、他の学級よりも整然としていて、訓育が徹底したという印象をうける。かように観察されている。

C教師 教職経験が20年に近い老練な壮年中期の女教師。年令的には壮年中期だが、小学校教師として満40才にもなると年寄り教師である。児童にはお婆ちゃんといった印象を与えている。内向的性格で万事控え目。社会的向性も内向型。神経質的傾向あり。感情変易性あり。指導態度は強制的、厳格で規律正しい指導をする。しかし指導が熱心で教育技術もすぐれている。校長の観察も、この調査結果と一致している。すなわちC教師は感情繊細だが忍耐強く、じゅんじゅんとして説くといった指導態度があり、慎重で老練であり温和な教師であるという。

D教師 若くて元気で活発。明るい青年教師である。新制度の教員養成大学の卒業生で、経験年数は最少の4年にすぎないが、新鮮な若さで経験不足からくる欠点を補っている。児童には一緒に遊んでくれるよい兄さんといった印象を与えている。やや外向的性格。社会的向性は外向型。劣等感ほとんどないが、やや感情変易性あり。被験者中唯一のM型教師。

指導態度は愛情的で熱心である。しかし厳格で規律正しい指導をするが、強制的ではない。むしろ自由放任的傾向がある。この自由放任的態度は、他の教師と比べて特徴のある態度である。

校長の観察によると、児童の心理をよく理解していて叱る時には大いに叱るが、普段は児童と一緒に遊ぶ教師であり、教科外指導をよくする熱心な教師だといっている。

E教師 壮年前期の男教師。やや内向的性格。神経質的傾向がある。男教師だがややW的な性格行動がみられる。指導は熱心である。校長の観察によると感情が細く豪放さが足りないが、忍耐強く児童を指導し、無理をさせない。非常に慎重であるという。

F教師 壮年期の男教師。内向的性格でW的傾向がある。社会的向性も男子としては強度な内向型。神経質的傾向、感情変易性、劣等感も強い。指導態度の特徴は学校事務や学級管理が熱心であること、強制的で厳格で規律正しい指導をするが、愛情も深く熱心であることである。

校長の観察では、責任感が強く、この点では学校で随一であるという。また物事を中途半端にしない几帳面さをもっており、こまかいことも見逃さず整然とさせる。

児童のしつけは厳格で、曖昧な態度をとらない。やるべきことは必ずきちんとさせる。したがって強制的である。訓育はきわめて徹底し、学級管理は行き過ぎと思われる程、整然としている。たとえばF教師の担任学級児童は、2ヶ月もすると廊下の歩き方をみてもそれとわかる程であるという。

IV 学級児童からみた教師との人間関係

質問紙で担任教師に対する児童の態度を調査した結果は、Table 3 および Fig. 1 のようになっている。

Fig. 1は調査項目を9種類の関係性（尊敬、親和、信頼、服従、嫌悪、反抗、軽蔑、恐怖、不満）に分類し、各学級教師における男女児童別の平均で示したものである。Fig. 1 から学級児童が各々の教師に対する態度を、9種類の関係性について概括すると次のようになる。

A教師は親近愛着の関係性のすべてにおいて平均以下であり、疎遠離反ではその程度がすべて大である。とくに児童の不満の態度が顕著に現われ、全般的にかなり好ましくない関係状態にある。

B教師は男子児童から尊敬、親和されず、かなり嫌悪され恐怖感をもたれ、不満に思われているが、しかし軽蔑はされていない。ところが女子児童からは極めて尊敬親和され、満足感でもって迎えられている。

C教師は、男子児童からも女子児童からも同じ程度に親近され疎遠されているが、親近愛着の程度が大で、好ましい人間関係にある。

D教師は尊敬、親和、信頼、服従の親近愛着の関係性がきわめて大である。この点は、他の教師と比較するときわめて大である。

E教師はC教師と類似した状態にあるが、男子児童の不満感がやや大きい。

F教師は信頼、服従されているが、親和の程度がやや少い。男子児童から、かなり嫌悪され恐れられ不満に思われている。しかし女子児童はかような状態でなく、相当により関係を維持している。

以上の諸点を親近愛着と疎遠離反の両極にまとめて整理し、これを男子と女子に分けて図示するとFig. 2 となり、各教師に対する児童の性差を的確に把握することができる。(Fig. 2 は第一報告の Fig. 2 から、本報告の事例となつた6学級を抜き出したものである)

また教師に対する児童の適応、不適応の観点から整理すると、第一報告の Table 6 におけるA(5の1) B(5の5) C(6の1) D(5の7) E(5の3) F(6の3)となつて、A教師に対しては不適応児童が40%もあり、極めて児童—教師関係がよくないことがわかる。

Fig. 1 児童と教師の人間関係の関係性による図示

9つの関係性は、それぞれ6個の質問項目で調査される。Nは学級児童数、 Σ Scoreはその関係性について、学級児童のすべてが抽出した頻度である。

Fig. 2 学級児童男女別の教師に対する態度布置

B, C, E, Fの教師の学級は、普通またはやや適応の児童が多く（やや適応と普通とを合わせて56%~76%）、D教師の学級では適応児童が非常に多い。（適応とやや適応を合わせると74.9%）

次に、さらに各教師に対する学級児童の態度を、具体

的に明瞭にしてみよう。Table 3は調査項目（附表参照）のおおのを、学級児童の何名が抽出したか、これを示したものである。

この表から児童の教師に対する態度の特徴を、明らかにすることができる。すなわち、多数の児童から抽出さ

Table 3 調査項目について学級児童が抽出した頻度(%)

教 師	A		B		C		D		E		F		B'		D'		平 均*	
	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F
児童の性																		
児童数																		
項目番号	23	19	23	27	21	26	24	23	20	26	23	26	23	27	21	26	M	F
1. 1	13.0	47.4	13.0	59.2	42.9	38.4	45.8	26.1	40.0	23.1	17.4	7.7	30.4	63.0	33.4	30.8	23.3	30.4
2	43.5	10.5	39.1	0	9.5	15.4	0	0	23.1	47.8	7.7	43.5	11.1	0	15.4	25.6	13.8	13.8
3	4.3	15.8	0	7.4	19.1	19.2	50.0	13.0	15.0	23.1	30.4	3.8	17.4	44.4	52.4	26.9	24.1	27.4
4	52.2	5.3	17.4	0	9.5	3.8	0	0	5.0	7.7	17.4	11.5	47.8	3.7	4.8	0	22.3	5.4
5	8.7	26.6	26.1	63.0	52.4	73.1	91.7	78.3	75.0	38.4	39.1	65.2	47.8	74.0	76.2	57.7	47.1	55.2
6	26.1	15.8	4.3	3.7	4.8	23.1	0	0	20.0	15.4	4.3	11.5	30.4	14.8	0	0	17.0	15.5
7	8.7	5.3	47.8	48.1	14.3	23.1	45.8	17.4	50.0	23.1	60.9	26.9	21.7	7.4	28.6	15.4	29.6	20.9
8	8.7	0	30.4	11.1	0	0	41.6	34.8	25.0	7.7	43.5	15.4	13.0	0	28.6	46.1	18.5	11.5
9	30.4	31.6	13.0	0	0	7.7	0	4.3	10.0	7.7	17.4	3.8	43.5	7.4	0	3.8	15.9	13.2
2. 1	4.3	5.3	26.1	55.6	42.9	34.6	95.9	65.2	45.0	30.8	34.8	92.3	26.1	48.1	23.8	50.0	34.1	38.8
2	34.8	10.5	69.8	14.8	33.4	3.8	25.0	8.7	30.0	19.2	69.7	7.7	69.8	11.1	47.6	19.2	42.2	11.2
3	8.7	26.6	8.7	51.8	33.4	42.3	79.2	74.0	45.0	34.6	21.7	34.6	13.0	37.0	61.9	26.9	28.9	38.8
4	13.0	0	8.7	25.9	4.8	11.5	0	4.3	5.0	11.5	21.7	3.8	34.8	0	14.3	0	12.2	8.8
5	13.0	5.3	39.1	51.8	33.4	26.9	70.8	56.5	45.0	34.6	39.1	57.7	21.7	44.4	19.1	19.2	31.9	37.5
6	8.7	10.5	4.3	0	4.8	0	0	0	0	3.8	13.0	0	26.1	3.7	0	3.8	10.3	6.8
7	4.3	26.6	13.0	33.4	38.1	26.9	50.0	47.8	20.0	34.6	26.1	34.6	17.4	25.9	42.9	34.6	29.6	31.4
8	8.7	0	26.1	3.7	0	0	0	0	5.0	3.8	17.4	0	4.3	0	0	11.5	8.2	2.4
9	52.2	47.4	13.0	3.7	9.5	15.4	0	4.3	15.0	15.4	30.4	0	60.9	14.8	9.5	11.5	27.1	22.3
3. 1	4.3	5.3	0	40.7	28.6	19.2	29.2	26.1	15.0	23.1	17.4	11.5	17.4	18.5	28.6	19.2	15.2	19.6
2	30.4	5.3	21.7	0	0	3.8	0	0	5.0	11.5	21.7	3.8	26.1	7.4	0	15.4	14.8	6.8
3	13.0	57.9	8.7	81.5	57.1	50.0	87.5	74.0	55.0	46.1	21.7	30.8	8.7	66.7	66.7	42.3	40.0	54.4
4	8.7	0	8.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17.4	3.7	0	7.7	5.9	2.0
5	4.3	0	26.1	29.6	23.8	30.8	58.3	60.9	45.0	23.1	39.1	30.8	21.7	29.6	14.3	15.4	26.7	27.7
6	21.7	21.1	4.3	0	0	0	0	0	0	0	13.0	0	13.0	3.7	0	7.7	10.3	7.4
7	21.7	36.9	52.2	66.7	71.4	46.1	75.0	87.0	50.0	69.2	52.2	65.2	30.4	63.0	57.1	61.5	50.8	58.1
8	21.7	21.1	17.4	18.5	28.6	46.1	12.5	13.0	15.0	38.4	30.4	34.6	26.1	29.6	28.6	30.8	22.6	28.0
9	30.4	21.1	65.2	7.4	9.5	15.4	8.3	21.7	10.0	38.4	47.8	23.1	52.2	7.4	28.6	23.1	30.4	21.6
4. 1	13.0	21.1	39.1	70.4	23.8	26.9	91.7	82.7	70.0	50.0	47.8	77.0	17.4	51.8	19.1	26.9	41.9	47.4
2	8.7	0	21.7	3.7	0	0	0	4.3	0	3.8	21.7	0	26.1	0	0	11.5	12.2	4.4
3	0	10.5	4.3	18.5	19.1	15.4	33.4	21.7	10.0	34.6	8.7	23.1	4.3	22.3	23.8	23.1	13.7	24.0
4	8.7	5.3	21.7	3.7	0	3.8	0	0	5.0	3.8	4.3	0	17.4	0	0	0	9.6	3.7
5	30.4	26.6	65.2	100.0	52.4	46.1	100.0	87.0	85.0	77.0	65.2	100.0	39.1	100.0	71.4	61.5	57.4	59.1
6	34.8	0	4.3	0	4.8	0	0	0	5.0	3.8	8.7	0	8.7	0	0	3.8	9.3	3.4
7	8.7	47.4	26.1	33.4	47.6	38.4	45.8	34.8	25.0	46.1	34.8	42.3	30.4	100.0	38.1	34.6	34.4	46.0
8	47.8	36.9	26.1	11.1	0	3.8	8.3	0	5.0	0	26.1	0	30.4	3.7	23.8	11.5	15.9	6.1
9	39.1	21.1	13.0	7.4	19.1	19.2	16.7	4.3	0	19.2	26.1	15.4	60.9	22.3	19.1	15.4	27.1	24.7
5. 1	0	0	8.7	14.8	4.8	11.5	50.0	21.7	15.0	11.5	17.4	15.4	0	7.4	9.5	15.4	12.2	12.2
2	8.7	0	17.4	3.7	0	3.8	0	0	10.0	7.7	13.0	0	17.4	3.7	0	11.5	9.6	4.1
3	4.3	5.3	13.0	18.5	9.5	7.7	8.3	8.7	5.0	15.4	13.0	15.4	21.7	81.5	71.5	61.5	30.8	36.1
4	0	5.3	21.7	22.3	14.3	11.5	8.3	0	15.0	15.4	17.4	7.7	17.4	3.7	4.8	0	11.5	9.1
5	21.7	31.6	60.9	85.2	38.1	34.6	95.9	78.3	45.0	50.0	69.8	73.0	21.7	29.6	42.9	38.4	42.3	45.9
6	47.8	21.1	8.7	0	4.8	3.8	0	0	10.0	0	13.0	0	21.7	0	0	0	18.5	5.9
7	30.4	68.4	43.5	44.4	52.4	38.4	62.5	56.5	30.0	50.0	52.2	42.3	30.4	40.7	42.9	34.6	38.5	46.9
8	8.7	0	34.8	11.1	0	3.8	16.7	0	5.0	0	21.7	3.8	13.0	0	9.5	15.4	11.5	4.1
9	82.7	36.9	17.4	3.7	19.1	34.6	0	8.7	15.0	42.3	60.9	61.6	73.9	11.1	9.5	19.2	31.8	33.1
6. 1	4.3	5.3	13.0	63.0	23.8	30.8	37.5	43.5	40.0	26.9	4.3	11.5	13.0	25.9	33.4	30.8	21.1	26.4
2	30.4	10.5	26.1	7.4	0	0	8.3	0	5.0	3.8	13.0	3.8	21.7	0	0	11.5	12.6	5.4
3	4.3	21.1	17.4	44.4	33.4	26.9	33.3	34.8	20.0	26.9	4.3	11.5	0	11.1	4.8	15.4	14.5	22.9
4	4.3	0	4.3	3.7	0	3.8	4.2	0	5.0	0	17.4	0	21.7	0	0	7.7	8.5	2.7
5	4.3	10.5	21.7	37.0	52.4	42.3	50.0	56.5	25.0	34.6	17.4	30.8	8.7	22.3	28.6	30.8	25.2	30.4
6	8.7	5.3	0	3.7	4.8	0	4.2	8.7	0	0	8.7	0	17.4	3.7	0	3.8	6.3	5.7
7	8.7	36.9	30.4	59.2	28.6	46.1	62.5	60.9	40.0	30.8	26.1	46.1	26.1	55.6	28.6	34.6	31.5	49.6
8	13.0	10.5	26.1	3.7	4.8	11.5	0	0	15.0	15.4	26.1	0	21.7	0	4.8	7.7	11.1	7.4
9	47.8	5.3	26.1	7.4	4.8	3.8	16.7	4.3	5.0	23.1	30.4	19.2	52.2	11.1	4.8	11.5	23.4	16.2

* 平均は、第1報告で調査された12学級の全てを含む

れている項目を取り出すことと平均からの偏りを、各項目について調査すればよい。まず多数の児童から抽出された項目として、学級児童の $\frac{1}{3}$ 以上が抽出した項目を Table 6 から抜き出して、教師別にまとめると Table 4 が得られる。したがって Table 4 の項目は、その教師に対する学級児童の共通した基本的対人態度として解釈して差支えない。すなわち各教師について、次のことがいえる。(括弧の番号は、附表の項目番号である)

A教師 男女児童が共通して示す態度は、ひいきするから嫌い⑨、やかまし過ぎる先生④⑤、教え方をもつと上手にしてもらいたい不満②⑨、がみられる。特に⑨は男子児童の82%が指摘している。

その他、男子児童は、よく口答えをする④⑤、なんとなく嫌い⑫、よく小言をいうから嫌い⑫、実力がない先生④⑤、熱心に教えてくれない④⑤、時々皆で馬鹿にする⑤⑥、すべてにおいて満足できない⑥⑨、などが多数あげられ、女子児童では、かなり好き③⑤、よく教えを乞いにいく⑥⑨、きれいな先生⑪、従順に服従する③⑦④⑦⑦が多数に摘

出されている。

B教師 共通して指摘する項目は、熱心である④⑤、指導をうけはじめてから力がついてきた④⑤、信頼し服従する③⑦④⑦⑦、博識である④⑤、などになっている。

男子児童は、小言をいうから嫌い⑫ (72%が抽出)、可愛がってくれない⑨、なんとなく嫌い⑫、恐い⑨、などを数多く指摘しているが、女子児童は男子児童と違った見方をされていて、熱心だ④⑤は100%、好き③⑤は80%であり、きれい⑪、あかるい⑫、偉い⑫、先生のために学校が楽しい⑫、先生を見習う③⑥⑥、全く服従する③⑦、親のようだ③⑤、などが数多い。すなわち、女子児童はよく親近愛着しているが、男子児童はやや疎遠離反的な態度をもっている。

C教師 男女児童から共通して抽出される項目が多い。30%以上は11項目もある。明るく楽しい⑫、好き③③、服従する③⑦④⑦⑦、心から相談できる④⑤、実力がついてきた④⑤、きれい⑪、偉い⑫、が抽出頻数の多い項目である。

Table 4 学級児童の3分の1以上が抽出した項目**

教師	抽出項目 関係性		男子児童のみが抽出した項目	女子児童のみが抽出した項目	男女児共に抽出した項目*
	親	近			
A	疎	遠	なし	11 33 37 47 57 67	なし
	親	近	12 14 22 46 49 56 69	なし	29 48 59
B	疎	遠	なし	11 15 21 23 27 31 33 47 61 63 65 67	17 25 37 41 45 55 57
	親	近	12 22 39 58	なし	なし
C	疎	遠	25 27 63	67	11 15 21 23 33 37 45 47 55 57 65
	親	近	22	38 59	なし
D	疎	遠	11 13 17 43 51	なし	15 21 23 25 27 33 35 37 41 45 47 55 57 61 63 65 67
	親	近	なし	なし	18
E	疎	遠	11 17 21 35 61 67	27 43 47 57	15 23 25 33 41 37 45 55
	親	近	なし	38 39 59	なし
F	疎	遠	17 35	23 27 67	15 21 25 37 41 45 47 55 57
	親	近	12 18 22 39	38	59

* いづれか一方のみが50%以上の場合、数字の下線で示す。一男子、一女子

** 表の数字は項目番号。項目は附表参照。太数字は特に50%以上を示す。

男子児童に抽出が多く、女子児童に少い項目は、頼りにする⑤、命令をよく守る②⑦、親のように慕う⑨、といった親近愛着の項目と、小言をいうから嫌い②⑨、の疎遠離反の項目がある。次に女子児童に多い項目は、服従する⑥⑦、思ったことがいえぬ⑧、ひいきするから嫌い⑩、である。

D教師 この教師は男女児童から共通して抽出される項目が極めて多い。17項目もあり、しかもその抽出頻数が大である。明るい⑬、博識④、熱心⑤、実力がついた⑥、学校が楽しい③、好き③、服従する⑦の項目は男女児童の75%以上が指摘しており、なかでも熱心だという項目は、男子児童が100%抽出している。更に男女児童の50%以上が抽出する項目は、偉い②、頼りになる⑤、授業が待ち遠しい⑤、何でも聞きにいく⑥、相談する⑥、服従する⑦、があげられる。35%以上は、親以上だ⑦、よく手伝う④、見ならう④、親のようだ⑧、が挙げられる。かように男女児童から親近愛着されているが、恐い⑬が男子で41%、女子で34%ある点は興味深い。もう一つ興味深い現象は、きれいな⑪が男子児童から45%も抽出されている。筆者の観察では、男子教師としてはむしろ小柄の普通の教師だと思うが、親近愛着される教師は、児童から理想化され美化されるのであろう。

E教師 共通に指摘された項目は、熱心⑤、博識④、服従する⑦、明るい⑬、好き③、力がついてきた⑥、頼りにする⑤、学校が楽しい③の項目である。

女子児童に少くとも男子児童が数多く抽出する項目は、服従する⑦⑦、授業が待ち遠しい⑤、きれいな⑪、偉い②、見ならう④である。男子児童に少くとも女子児童に多い項目は、何でも教えられる⑦、命令をよく守る②⑦、手伝う④、可愛がつてくれる④である。それと同時に思っていることが充分にいえぬ⑧、可愛がつてくれない⑩、ひいきするから嫌い⑩の項目もある。よく可愛がつてくれる、とその反対のくれないが、おのおの $\frac{1}{2}$ 程度あり、またひいきするという者も $\frac{1}{2}$ 程度あることからみて、この教師はある女子グループの者を特に目をかけていて、これを他の者が嫉妬し嫌悪しているのかも知れない。

F教師 男女児童が共通して抽出する項目は、熱心⑤、力がついてきた⑥、従順に服従する⑦④⑦、偉い②、博識④、明るい⑬、頼りになる⑤の項目である。しかし、ひいきするから嫌い⑩を男女児童の60%以上が指摘している点は注意を要する。

なお男子児童は、服従する⑦、授業が待ち遠しい⑤と、小言をいうから嫌い②、なんとなく嫌い②、こわい⑬、可愛がつてくれない⑩を挙げている。女子児童は、学校が楽しい③、いいつけをよく守る②⑦、思っていること

が充分にいえぬ⑧がある。

V 児童との人間関係を規定する 教師の条件

これまでにまず被験者となつた6名の教師の人格特性と教育的指導態度を(Ⅲ)で調べ、次にその教師に対する学級児童の態度を(Ⅳ)で調査し分析を加えた。したがつてここでは何故かような(Ⅳ)の結果が児童の態度として現われたか、その原因を(Ⅲ)で調べた教師の人格特性や教育的指導態度の中で探索しなければならない。このために(Ⅲ)と(Ⅳ)を照応させて比較検討することが望まれる。

既に一部分は明らかになつているが、児童と教師の人間関係は、各教師で相異した様相を示しているが、必ずしもそのすべてが相異なるわけではない。そこに類型的なある共通特徴が認められる。またこんごの研究の発展のためにも、その類型を発見し設定することが必要である。

このために Table 3 を利用し、教師と教師の相互相関係数を求めた。(Table 5) 次にこれを因子分析し、児童から教師に対する態度として表明された人間関係に関する、これら個々の教師がもつ類型的因子の探索をおこなつた。Table 6 は類型的因子とその因子負荷量である。

Table 5 教師間の相関行列

	A	B	C	D	E	F
A		.2668	.1326	-.0025	.1230	.3222
B	.2668		.5573	.6325	.6825	.7636
C	.1326	.5573		.7712	.7877	.5745
D	-.0025	.6325	.7712		.7652	.5924
E	.1230	.6825	.7877	.7652		.7026
F	.3222	.7636	.5745	.5924	.7026	

Table 6 因子負荷量

因子 教師	I	II	III	h^2
A	.2631	-.4099	-.2267	.2886
B	.8286	-.2261	.2213	.7867
C	.8161	.3389	-.1849	.8151
D	.7978	.3886	.1877	.8227
E	.8698	.2298	.0721	.8146
F	.8405	-.2676	.1255	.7938
Σk^2	3.5213	.6094	.1908	
$\frac{\Sigma k^2}{N}$	.5869	.1016	.0318	
%	58.69	10.16	3.18	

る。

得られた類型的因子を解釈する際に、可能な限り異質な人間関係にある事例が数多く取り上げられていると、その解釈が容易である。しかるに本報告の事例は僅か6名であり、異質な事例の選択に意を用いたが、まだ充分とはいえなかつた。ために類型的因子の解釈は困難である。強いて解釈すると次のようにいえる。

第1類型的因子 この因子はA教師において、他の教師よりもきわだつて低く負荷されている。A教師と他の教師の差異点は、既に Table 3 で明白だが、男女児童から親近愛着されず疎遠離反される教師である。かような点を考慮して、この因子は親近愛着—疎遠離反の一般的な人間関係の因子と称してよからう。

第2類型的因子 この因子はC, D, Eの教師に負荷されている。C, D, Eの教師とA, B, Fの教師を区別する特徴は、学級児童の男子と女子とで、教師との人間関係が違ふ点である。C, D, Eの教師には、男子児童が女子児童よりも、その教師により多く親近愛着をしている。A, B, Fの教師では明らかに男子児童がその教師から疎遠離反している。これに反して、女子児童は男子児童よりも遙かに親近愛着している。すなわち第2類型的因子は、人間関係における性的差別の因子である。男子児童から好かれるが、女子児童からは嫌われる、あるいはその逆の状態を示す因子である。この因子は、男女共学をたてまえた今日の学校教育で、児童と教師の人間関係を考慮する際の重要な因子であると思う。

残余の第3類型的因子は、第1、第2の類型的因子のように、その性質を説明するための資料が乏しい。したがつて解釈しないでおく。

以上の結果から、事例として取り出された6名の教師を類型別になると、三群に分けられる。この状況は、第1類型的因子と第2類型的因子を直交軸にした Fig. 3 の態度布置図から明らかにされる。すなわち、その特徴は次のようにいえる。

第1類型(児童が親近愛着せず疎遠離反的である教師)

A教師がその事例である。事例が1名であり、これから一般化することは危険だが、あえてこの類型の教師の条件を述べると次のようになる。A教師は最近に復職した壮年前期の女教師であり、やや内向的性格で、特に社会的向性が内向型で、劣等感が非常に強く、教育技術が熟達していない教師であつた。学級児童は、ひいきをよくする口やかましい強制的教師で、指導が下手だとみている。劣等感の強さは教育界への適応困難と結びついている。教育技術に自信がないこと、それが補償逆形成さ

Fig. 3 態度布置図

れて、口やかましきとして現われている。ひいきも劣等感と関係すると思われる。かように、指導技術が拙く、児童をよく叱り、強制的で偏愛する教師は、児童から親近愛着されず疎遠離反される。

第2類型(女子児童は親近愛着するが男子児童は疎遠離反する教師)

F, Bの教師がこの類型にあてはまる。F教師は壮年期の男教師だが、性格は内向的でWの性格である。Bは青年女子教師。両者に共通する点は、指導が熱心だが、感情繊細で、非常に強制的な点である。校長の観察にも共通した点があり、几帳面でささいなことも見逃さず、整然とさせ様が厳格である。徹底した訓育をしている。これらの諸点が、男子児童を反撥させる原因であるらしい。しかし女子児童はむしろこれを歓迎して尊敬し、従順に服従している。男子児童はこの教師を恐れている。女子児童を愛し自分たちは疎外されているという感じを持っている。この類型の教師は、男子児童を殊更に厳格に指導する傾向がある。

まとめてみるとこの類型の教師は、指導熱心だが強制的態度であり、やや狭量で、自分の信ずる型に児童をはめ込もうとし、児童を自由に放任せず、一方的な指導をする教師である。性格的には几帳面で内向的である。男教師の場合はW的な傾向がある。

第3類型(児童から親近愛着される教師)

C, D, Eの教師がこの類型の教師である。しかし、C, Eの教師とD教師とは多少その様相が相異なる。D教師は青年男教師で活潑明朗で、自己がまる出しになつており、指導態度は自由放任的であり、熱心で愛情的であり、共に

遊び共に学ぶ教師である。かような指導態度が児童に適合し、児童から親近愛着されている。一方で、CとEの教師は、自我を抑圧して指導に当たっている。きわめて忍耐強く、児童に無理をせず、寛容な態度で熱心に指導している。このCとEの二人の教師の性格は、基本的には児童にとって望ましいものとは思われない。すなわち感情的であり、神経質の傾向が認められるが、教育指導に際して、それを表面に出さず抑圧して、いわゆる教師として習熟した指導態度をとっている。

この点は注目すべき点である。児童—教師関係は、勿論教師の人格特性にも依存するが、たとえ望ましくない人格特性をもっていたとしても、それがただちに指導態度に現われ、児童と教師の人間関係を破壊するのではない。教育技術として改善され加工されて、教育的指導態度となり、児童に指向される。その改善加工の過程が教職技術の修練である。かくして望ましい方向に改善加工された例が、CとE教師の場合になるのだと思う。これに対してD教師の場合は、改善加工されずそのまま、彼の若さとその人格特性が児童に好まれるのである。彼は教師として適性が既に備わっている。(ただし、人間関係から見た場合のことである。他の方面は別に評価すべきであろう。)

かように同じく第3類型の教師でも、D教師とC、E教師とは人格特性に相異がある。しかし教育的指導態度では、類似点が多い。すなわち、児童から親近愛着される教師の指導態度は、愛情的、寛容、熱心であつて、無理をせず強制的でない。この点は教師の指導態度について行われた他の研究(1, 2, 4, 5)とも一致している。

VI 同一教師の2ヶ年間にける 児童との人間関係

第一報告では、担任教師が変わると、それぞれの教師に対する同一児童の態度にどのような変化があるかを調べた。その結果では、離合係数で $C=0.43$ となり、教師に対する児童の適応関係が、良い方向にしろ悪い方向にしろ、変化した者は71.1%になっていた。この結果は、児童と教師の人間関係においては、教師の側に主なる関係の性質を規定する要因が存すること、これを示す一つの証拠であると解釈された。ここではこれを逆にして、異なる2つの学級を担任した同一教師が、それぞれの学級児童といかなる関係を構成するものであろうか、その間に恒常的なものが存するか否かを調べることにする。

被験者になった教師はBとDである。資料はBとDが前年度に担任した学級児童(前学級児童)に回想させて質問紙に回答させたもの(質問紙の文章はこの際は全て

過去形にした)と現に担任する児童(現学級児童)に回答させたものを使用する。Table 3のB'とD'は前学級児童が抽出した頻数である。

調査条件がかようにBとB', DとD'で相異なるから、2つの資料の直接的比較は無理であるが、ここでは一応そのままの資料で比較する。比較の方法として、BとB', DとD'の相関をTable 3の各項目について求める。その結果はTable 7になり、高い相関が認められる。もしも調査条件が一定になると、この相関は更に高いものになるであろう。

Table 7 前学級児童と現学級児童の相関

教師 \ r	M	F	学級の全員
B	.3804	.7235	.6322
D	.6687	.7556	.6875

かように異なつた学級児童が、同一教師に対しては、ほぼ同様な類似した態度を示すことがわかる。換言すると、教師は担任学級の児童に対しては、その学級児童が変わつても、比較的恒常的な人間関係を形成する傾向があるといつてよい。

VII 要 約

児童と教師の人間関係で、教師の人格特性や教育的指導態度が、その関係形成にいかなる影響を与えるか、この点を調査した。

このために、まず6個の学級について、学級児童が担任教師に対して示す態度を調べた。その態度とは、尊敬・親和・信頼・服従の親近愛着の関係性および嫌悪・反抗・軽蔑・恐怖・不満の疎遠離反の関係性としての対人態度である。

次に、その学級における担任教師の人格特性と、教育的指導態度を調べた。人格特性として、性別・年令・向性(社会的向性・思考的向性・劣等感・神経質・感情変易性・一般向性を含む)および教職経験年数・最終学歴を取り上げ、教育的指導態度は、1. 愛情ある態度——冷淡な態度、2. 強制的態度——自由放任の態度、3. 熱心な態度——閑却した態度、4. 厳格で規律正しい態度——寛容な態度、5. 教育職務に勤勉熟達した態度——不勤勉未熟な態度を取り上げて調査した。

次に、この調査で明らかにされたところの児童が教師に示す態度と、教師の人格特性ならびに教育的指導態度との両者を相互に相関させて、因子分析法によつて、児童と教師の人間関係に影響する教師の条件を研究した。

その結果、教師の年令や性別は、児童—教師関係に比

較的影響を与えていないが、教育的指導態度の如何が、重要な条件となつていくことがわかった。それをまとめると次のようになる。

児童から親近愛着されない教師は、指導技術が拙く、よく叱り、強制的であつて、偏愛する教師である。

女子児童から親近愛着されるが、男子児童から疎遠離反される教師は、指導は熱心だが感情的で、ささいなことも見逃さず、強制的で、臍が厳格な傾向が認められた。男子教師はW的性格が認められた。

男子児童からも女子児童からも親近愛着される教師は、教育技術にすぐれた教師、または若く活潑で明朗な教師で、共に遊び共に学ぶ教師であつた。児童に対して愛情的で、寛容で熱心であり、強制的でなく無理をしていないことが明らかにされた。

(附表) 児童と教師の人間関係の調査票

I

- 11 きれいな先生
- 12 なんとなくきらい
- 13 よくいつしよに遊んだりお話ををする
- 14 ときどき口ごたえをしている
- 15 あかるい先生でたのしい
- 16 他の先生よりも少し軽くあまくみている
- 17 先生の前ではおとなしくしている
- 18 こわい先生
- 19 なにかものたりぬ先生

II

- 21 えらい先生
- 22 よくこごとをいい、しかるからいや
- 23 先生がいるので学校が楽しい
- 24 心の中では、はんこうしょく思っていない
- 25 たよになる先生
- 26 だらしない先生
- 27 親よりも先生のいいつけをよく守る
- 28 できるだけ先生から逃げとおざかっている
- 29 教え方がもつと上手であつたらよいと思う

III

- 31 先生にあこがれ尊敬している
- 32 先生がきらいで学校がたのしくない
- 33 先生が好き
- 34 先生のわる口をいうことがある
- 35 先生のお話をきくのがまちどおしい
- 36 たよりない先生
- 37 先生のいわれることにうそはないと思い、したがっている
- 38 先生に思っていることが充分にいえぬ

- 39 あまりかわいがつてくれない

IV

- 41 なんでも知っている先生
- 42 きらいだから先生のそばによりつかない
- 43 よくかわいがつてくれる
- 44 わざと先生のいいつけにそむくことがある
- 45 ねつしなよい先生
- 46 実力がないとかげで話しあっている
- 47 先生のいわれたおてつだいをよろこんでする
- 48 やかましすぎる先生
- 49 もつとねつしんに教えてもらいたい

V

- 51 先生ほどえらい人はないと思う
- 52 先生がきらいで学校へいきたくない
- 53 よく私をほめてくれるのでうれしい
- 54 大きくなつたら先生をみかえしてやろうと思うことがある
- 55 先生に教えてもらつてから、ぐんぐん力がついてきた
- 56 先生を皆でばかにすることがある
- 57 わからぬことは何でも先生にききにいく
- 58 先生の前ではおそろしくてビクビクしている
- 59 ひいきをするからいや

IV

- 61 先生のような人になりたいと思い、そのようすをまねている
- 62 先生がどこかへかわつてくれたらよいと思う
- 63 先生が親のように思える
- 64 こんな先生のところでは勉強してやらぬと思うことがある
- 65 何でもうちあけて、そうだんができる先生
- 66 先生にたいして先生と思えぬほど、けいべつするときがある
- 67 先生のいわれたことは、全て守っている
- 68 先生は自分にだけ特にきつくあたっているのではないかと思う
- 69 全てについて先生に満足できない

文 献

- (1) Anderson, H. H. : Domination socially integrative behavior. (in) Barker, G. (ed) *Child behavior and development*. McGraw-Hill, 1953, 459~483.
- (2) Jersild, A. T. & Holmes, F. B. : Characteristics of teachers who are 'Liked Best and Disliked Most'. *J. exp. Educ.*, 1940, 9, 139~151.

- (3) Waller, W. : The sociology of teaching. 1932
石山修平, 橋爪貞雄訳 学校集団. 明治図書, 昭和
32年, 270.
- (4) 上武正二: 児童生徒の教師観の変動. 児童心理,
昭和52年, 4, 976—983.
- (5) 光安文夫: 教師に関する心理学的研究. 福岡学芸
大紀要, 第3号, 昭和28年, 39—45.
- (6) 岸田元美: 児童と教師の人間関係の研究(I) —
教師への児童の適応— 教育心理学研究, 1957,
5, 87—95.
- (7) 岸田元美: 「教育的指導態度」調査法試案に関す
る二三の吟味. 徳島大学学芸紀要, 教育科学, 第1
巻, 1954, 31—47.

(1958年5月2日原稿受付)

ABSTRACTS

A STUDY ON THE HUMAN RELATIONSHIP BETWEEN PUPIL AND TEACHER : II

—With Special Emphasis on the Effects of Teachers'
Conditions upon the Pupils' Attitude toward them—

by

Kishida, Motomi
Tokushima University

This study is the 2nd report by the author concerning the study on the human relationship between pupil and teacher. The 1st report was an analysis of pupils' attitude toward their teachers. In order to confirm the points which had been proposed in the 1st report, the author took six teachers as subjects and investigated their personality traits and the educational attitude toward their pupils which had caused the differences in the pupils' attitude toward them.

As personality traits, sex, age, intro-extrovert, the term of teaching experience and final schooling were adopted. In order to investigate the patterns of teachers' educational attitude toward the pupils, a questionnaire was made, asking the teachers their daily attitude toward the pupils. The questionnaire

consisted of five investigation sheets; (1) affectionate.....indifferent (2) authoritative.....laissez-faire (3) strict.....liberal (4) devoted.....neglectful (5) qualified.....unqualified.

The pupils' attitude toward their teachers was then compared with the teachers' personality traits and educational attitude toward the pupils.

The main results of the investigation were as follow; The teachers' sex and age scarcely influenced upon the pupils' attitude toward them but their educational attitude toward the pupils much influenced upon it. Those teachers who had more desirable human relations to their pupils were identified as qualified, devoted, liberal and affectionate.

ON CONSCIENCE OF JAPANESE JUNIOR HIGH SCHOOL STUDENTS

—Their Moral Awakening—

by

Imamura, Ken-ichiro

Pre-adolescent agers are said to be in the age that they realize what fairness is and what is not. They will hardly be indoctrinated by the so-called pseu-

do-equalism in the present transitory world, but will tend toward the age of "fairness" profoundly generated in the spirit of mutual respect.